第31回
全国土地改良大会 秋田大会

記　録　誌

みどり
水土里ネット

目　　次

◇発刊にあたって …… P 1
◇大会の概要 …… P 2
◇式次第 …… P 3
◇開会宣言 …… P 4
◇国歌斉唱 …… P 4
◇開催県あいさつ …… P 5
◇主催者あいさつ …… P 7
◇歓迎のことば …… P 9
◇来賓祝辞 …… P 11
◇土地改良事業功績者表彰 …… P 12
◇21世紀土地改良区創造運動大賞 …… P 14
◇優良活動事例地区紹介 …… P 16
◇基調報告 …… P 17
◇大会宣言 …… P 20
◇大会旗引継ぎ …… P 21
◇次期開催県あいさつ …… P 21
◇緊急動議 …… P 22
◇万歳三唱 …… P 23
◇閉会のあいさつ …… P 23
◇歓迎アトラクション …… P 24
◇会場案内図 …… P 26
◇併催行事 …… P 27
◇交歓会 …… P 30
◇事業視察コース …… P 32
◇大会参加者集計表 …… P 39
◇大会運営委員会 …… P 40
◇大会までの流れ …… P 41
◇大会用ツール・グッズ …… P 42
◇大会スナップ …… P 44
◇あとがき …… P 47

発刊にあたって

第31回全国土地改良大会秋田大会を平成20年10月14日大会式典（秋田市「秋田県立武道館」）、続いて15日～16日の事業視察（県内５コース）の日程で開催しましたところ、県内、県外併せて約3,900名の参加を頂き、盛会裡に終了することができました。

幸い３日間とも天候に恵まれ、参加者に快適な気分で秋深まる秋田を堪能して頂くことができました。

これもひとえに、農林水産省を始め、秋田県、県内市町村、水土里ネット及び関係団体等関係者皆様のご支援並びに参加者皆様のご理解とご協力の賜と衷心より御礼申し上げます。

また、本年は全土連並びに全国殆どの県土連の創立50周年という節目の年でもあり、この記念すべき年での開催は誠に光栄なことと存じております。

本大会は**「あすを拓く大地、きらめく疏水、たくましき郷」**を大会スローガンに定め、「土」、「水」、「里」がこれまで果たして来た役割を再認識するとともに、引き続き食料生産のみならず環境の持続的保全、文化の伝承等重要な役割を果たすことが期待されていることから、これらを国民共有の貴重な財産として守り、育み、伝承していくべきことを広く全国に訴えることができました。

そしてまた、「土」、「水」、「里」を健全に保全管理していくことを使命とする「水土里ネット」が本大会を契機に、こうした意識を高め、体質強化を図り、国民のニーズに即応した日本農業の構築に貢献できることを期待するものであります。

この記録誌が関係者皆様にご高覧いただき、美の国、豊穣の国秋田で開催されました秋田大会の思い出の縁となれば幸いに存じます。

我が国の農業農村のますますの発展と本大会関係各位のご健勝を祈念して発刊のご挨拶といたします。

秋田県土地改良事業団体連合会
会長　高　畑　　進

大会の概要

大会開催趣旨

本大会は、食料自給率の低下や食の安全・安心に関する課題が山積する中、全国の土地改良関係者が一堂に会し、農業・農村が担っている役割を広く国民にアピールするとともに、明日の活力ある農業・農村づくりのために、今できること・しなければならないことについて、考える場として開催するものである。

❖主催／全国土地改良事業団体連合会、秋田県土地改良事業団体連合会
❖後援／農林水産省、秋田県、秋田市

秋田大会テーマ

あすを拓く大地
きらめく疏水
たくましき郷

【大会テーマの解説】

水土里ネットの三要素である農地、水、里を大地、疏水、郷に置き換え、それらの資源が「あきた」に豊富に存し、三フレーズの頭の文字を強調することにより開催地が「あきた」であることを一目でアピール出来るようにした。

大会ロゴ・キャラクター

【大会ロゴ・マークの解説】

豊かな自然と風土が美人を育むとされ、絶世の美人といわれた「小野小町」と秋田米を代表する「あきたこまち」から秋田県らしさをモチーフにした。

秋田県マスコット スギッチ

【スギッチの解説】

日本三大美林の一つに数えられている秋田杉が県の木として制定されており、昨年開催された秋田わか杉国体のマスコットとなり、現在では秋田県のマスコットとして活躍しています。

式 次 第

オープニング歓迎アトラクション

●西馬音内（にしもない）盆踊り

大会式典

1	開会宣言	秋田県土地改良事業団体連合会副会長	小林　冨義
2	国歌斉唱		
3	開催県あいさつ	秋田県土地改良事業団体連合会会長	高畑　　進
4	主催者あいさつ	全国土地改良事業団体連合会会長	野中　広務
5	歓迎のことば	秋田県知事	寺田　典城
		秋田市長	大山　幹弥（副市長代読）
6	来賓祝辞	農林水産大臣	近藤　基彦（副大臣）
7	土地改良事業功績者表彰	農林水産大臣表彰	
		農林水産省農村振興局長表彰	
		全国土地改良事業団体連合会長表彰	
8	21世紀土地改良区創造運動大賞表彰		
9	優良活動事例地区紹介		
10	基調報告	農林水産省農村振興局　整備部長	齋藤　晴美
11	大会宣言	秋田県立大学　生物資源科学部　学生	進藤暁・成田望美
12	次期開催県紹介	島根県土地改良事業団体連合会	
13	大会旗引継ぎ	秋田県土地連 ➡ 全土連 ➡ 島根県土地連	
14	次期開催県あいさつ	島根県土地改良事業団体連合会会長	青木　幹雄
15	緊急動議	香川県香川用水土地改良区理事長	組橋　啓輔
16	万歳三唱	全国土地改良事業団体連合会副会長	吹田　　愡
17	閉会あいさつ	秋田県土地改良事業団体連合会副会長	高橋　規男

歓迎アトラクション（わらび座）

●秋田の四季を歌と踊りで
●なまはげ
●ばんば舞（水土里ネット全国大会版）
●角館の秋祭り 飾山囃子
●カーテンコール

開会宣言

秋田県土地改良事業団体連合会
副会長　**小林　冨義**

豊穣の秋を迎え、本日ここ秋田市におきまして、このように大勢のご参集をいただき全国土地改良大会が開催出来ますことを衷心より厚く御礼申し上げる次第でございます。

それでは、ただいまから第31回全国土地改良大会秋田大会の開会を宣言いたします。

国歌斉唱

開催県あいさつ

秋田県土地改良事業団体連合会
会長　**高畑　　進**

第31回全国土地改良大会秋田大会の開催に当たり、大会スローガンを「あ、き、た」の三つの文字を頭に、「あすを拓く大地、きらめく疏水、たくましき郷」と定め、全土連のご指導を頂きながら鋭意準備を進めて参りました。

本日、ご来賓をはじめ関係皆様多数のご参加をいただき、3,900名にも及ぶ盛大な大会となりましたことは誠に感無量のものがございます。

全国各地からご来県の皆様を心から歓迎申し上げますとともに、深く感謝申し上げます。

また、今年は全土連並びに全国殆どの県土連の設立50周年という節目の年でもあり、この記念すべき年での開催は誠に光栄なことと存じております。

本県はこれまで、大会スローガンに掲げる大地、水、故郷の恵みを受け、農業県として着実に歩を進めてまいりましたが、特筆すべきは本県農業の大先駆者石川理紀之助翁の功績であります。

翁の訓言の一つであります「寝ていて人を起こす事なかれ」は周知の言葉でありますが、翁はこうした強い信念のもと、全国各地での農村振興に向けた巡回指導に生涯を捧げられ、このことが、当時の農商務省から高い評価を受け、その言動・実績が国の公報として全国に配布されたほか、翁の卓越した指導力が買われて農商務省の役人に要請されましたが、その任にあらずと辞退されたと聞いております。

また翁が新しい農業技術の普及を図るため明治11年に始めた「種苗交換会」は、戦時中も一度も休むことなく連綿と続き、今年で実に131年目を迎えるに至っており、この間農業・農村の発展に大きく貢献してきております。

本会では創立50周年を記念し、石川翁の優れた業績を偲び、目下、等身大の木像を制作中で、本日この会場で完成間近の作品を展示しておりますので、是非ご覧になって頂きたいと思います。

昨今、食を巡る国際環境の変動や国内自給率の向上等多くの課題・問題を抱える中、食の安全・安心に対する国民の不安が一層高まっている折りから、食の安全保障は、重要な国家戦略の一環として、適切かつ強力に対処して下さるよう強く要望するものであります。

いつの時代にあっても、食料生産の要めとなる農地・水・環境の保全管理は、私ども土地改良区の果たすべき責務であり、今後、その期待は益々大きくなるものと存じます。

この点、一昨年から本格化した「農地・水・環境保全向上対

策」は、正に時代に即応した施策であると存じております。

特に、この対策の実施によって地域内のコミュニティー活動が復活したことは大きな成果であり、昨今沈滞気味の農村に明るい笑顔が戻ってきた。例えば、これまで険悪だった所謂嫁と姑の関係が、花壇作りといった共同作業を通して一転大変睦まじくなったというような声が聞かれていることは、誠に喜ばしいことと存じます。

この素晴らしい制度は引き続き創意と工夫を重ね成果を挙げていくことが肝要であり、そのことがまた自ずと制度の継続に繋がっていくものと確信しております。

なお、これと併行して来年度の概算要求に施設の維持管理に関連した施策として、国営、県営に続き地域農業水利ストックマネジメントが盛り込まれたことは、我々の永年にわたる夢が実現するわけで、本日全国の関係者が一堂に結集したこの機会に、来年度予算に必ず盛り込まれるよう強く要望していこうではありませんか。

本日は式典に引き続き「劇団わらび座」による歓迎レセプションを用意しております。

わらび座は田沢湖に近い一角に本拠地を置き、「地域との共生」と「民族芸能」に軸足を置いたミュージカルを中心に、広く国の内外に亘って精力的に公演を行っている日本有数の劇団でありますので、ごゆっくりと、お楽しみ頂きたいと存じます。

また、明日からの事業視察を通じ、秋田の風土や食文化などにも触れて頂き、秋たけなわの秋田を堪能して頂きたいと存じます。

さらに皆様には、何とぞ財布の紐だけは十分にゆるめられ、地域経済の活性化にご協力賜りますようお願い申し上げます。

今回の大会開催に当たり格別のご指導、ご支援を賜りました関係各位に心から感謝申し上げ、開催県としてのご挨拶といたします。

主催者あいさつ

全国土地改良事業団体連合会
会長　**野中　広務**

第31回全国土地改良大会の開催に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

まず、本日ご多用にもかかわらず、農林水産省からは、近藤農林水産副大臣をはじめ幹部の皆様、地元秋田からは、寺田知事、佐竹秋田市長をはじめ、関係各位、並びに多くの関係機関、関係団体の皆様のご臨席を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

また、全国各地から、農業農村整備の推進に日々ご尽力を賜っております関係者の方々にも多数ご参集いただき、誠にありがとうございます。

さて、この秋田大会については、「あすを拓く大地　きらめく疏水　たくましき郷」をメインテーマとして開催しております。

ここ秋田は、農聖石川理紀之助翁が、明治から大正初期にかけて、その一生を農村の救済と農業振興に捧げられ、その遺跡と遺徳が今に伝え語られております。その翁が多年の実践の結果悟りえた14ヶ条の信条の一節に、「農家にして蓄財を望まば耕地に貸し付けて利を取れ」と申されております。これは、「農家が財をなそうと思えば農地に資財を投入し、そこからの産物で利益をあげよ」と言うことですが、この精神が、雄物川筋に広がる仙北平野の穀倉地帯や、食糧増産のための大国家プロジェクトである八郎潟干拓に結実し、豊穣な秋田の大地と米をはじめとする優れた食の宝庫を成しているものと考えます。

一方、国際的には、近い将来の石油資源枯渇への懸念と地球温暖化への早急な対応を求める国際世論の後押しから、穀物を原料とするバイオ燃料の生産に拍車がかかり、食料需要との競合が世界的にも大きな問題となっております。

穀物価格はこのわずか１年のうちに過去にない水準を超えて急騰を続けており、それらを原材料とするあらゆる食料品の価格までもが高騰の兆しを見せているところであります。食料自給率４割の我が国においては、国民生活への深刻な影響や将来にわたる食料の確保に大きな不安が横たわっていると言っても過言ではないと思います。

国内に目を転じれば、経済力に頼って世界中から輸入した食料を食べ残しとして大量に廃棄している飽食の一方で、国内農地は年々減少し、更には耕地利用率の低下や耕作放棄地の増大など、限りある貴重な農地が低未利用な状態にあるという看過できない矛盾が存在しております。

千数百年に亘り脈々と受け継がれてきた我が国水田稲作農業と里地・里山管理は、夏場の豊富な降水を有効に利用しつつ洪

水や土砂崩壊を防止する優れたシステムであり、先人達の知恵と労苦の結晶として現在まで継承されてきたものですが、近年の農業従事者の減少と高齢化、米消費量の低下と米価の下落による稲作経営の危機により、この優れた持続可能なシステムが、その存続の危機に直面しております。

我が国の食料自給率と供給力を高めていくためには、私ども水土里ネットが守ってきた「水」「土」「里」をさらに未来に継承する貴重な財産として後世にきちんと引き継いでいくことが必要でありますが、そのためには国をはじめとする行政と私ども水土里ネットが連携し、農地と水利施設の保全対策と更新整備をきちんと行っていくことが何よりも重要であり、農家のみならず国民に対する重要な責務を担っているものと認識しております。

本日ご参集の皆様方におかれては、地域農業の発展と地域の活性化のために、「水」「土」「里」という地域資源を担う中核的な存在として、より一層のご尽力を賜りますことを心からご期待するものであります。

幸いにも、先般の内閣改造においては、石破農林水産大臣がご就任されましたが、石破大臣はこれまでも農林水産政務次官等も歴任され、また地元も農業県である鳥取県ということでありますし、また、近藤副大臣におかれましても、新潟県ご出身ということで、お二人とも現地の農業事情に精通しておられます。現下の厳しい農業情勢の中ではありますが、お二人のお力で、現実の農村の姿をふまえた力強い農業政策が展開されますことを心からご期待申し上げるところであります。

最後になりましたが、これまでのご功績により本日晴れの表彰を受けられます方々に対し、これまでのご努力に改めて敬意を表しますとともに、心よりお慶び申し上げます。

また、本大会の開催に当たりまして格別のご指導とご協力を賜りました農林水産省、秋田県及び秋田市のご当局をはじめ、関係機関に対して改めてお礼を申し上げ、開会の挨拶とさせていただきます。

歓迎のことば

秋田県知事
寺田　典城

農業農村整備の担い手であります全国の土地改良区の皆様、３千人を上回るかくも大勢の方々が秋田にお集まり頂きまして、本当にありがとうございます。

また、明日、明後日には、県内をご視察下さるということであり、本当にうれしく思います。

私の農業観を少し述べさせて頂きますと農業農村は、今、大きな潮目の中にあり、世界的に穀物価格が高騰し、食品の安全を揺るがす事件が多発する中、国民の目は安全安心な国内産業・国産農産物に向けられております。

しかし、農業・農村は総じて元気がなく、条件の厳しい中山間地域では集落機能の維持さえ危ぶまれている所も見られます。

こうした現状は皆さんがよくご存知のことと存じますが、その再生には何よりも農業経営の健全性を取り戻すことが必要であると考えます。

国民や経済界の食と農への関心がこれまでになく高まっている今こそ農業関係者が力を合わせ、水田資源をフルに使い切り、自給率の向上、農業経営の安定策について国民的な議論を高め、将来への道筋を付けることが大切と考えます。

特に食料自給率50％は国是として守るべきである、ということで今から20年位前、市長時代から訴えて参りました。

そのために秋田県で何をしてきたかと申しますと、単に区画の整理・拡大に止まることなく暗渠排水の徹底などにより水田の汎用化・多目的利用を図るとともに野菜や果樹、畜産を取り入れた経営の複合化・多角化の基盤づくりのために土地改良事業を10年間、県予算の10％、約2，300億円を投資してほ場の整備に努めて参りました。お陰様で本県の整備率は全国平均を上回る72％に達しております。

また、本県の米の自給率は670％で、食料自給率は174％ですから北海道に次いで全国２番目であります。

もし、食べ物に困るようなことがありましたら間違いなくお米はありますので是非、秋田県にお出願います。

ただ、秋田県は杉の県、米の県と言われますが、ご案内のとおり木材の値段、お米の値段が大変ですから、これからどうするかということが秋田県の県政上の大きな課題であります。

また、米以外の作目の自給率は23％ですからその点では可能性のある、まだまだ見込みのある県だと思っております。

そこで、農業経営の複合化・多角化を図るため集落営農に力を入れて参りました。組織率は全国一番だそうで、皆でとにかく一生懸命農業をやりましょうという考えであります。

私は土地改良関係団体の皆様がこれから何をすべきかということにつきましては、食料自給率を徹底して上げる運動に力を注ぐべきではないかと思います。

それによって農業に携わる人は苦労もするでしょうけれども、新しい芽も出て参りますし、新しい農産物の加工品が出てくる訳ですから、日本のある面での産業の発展にも繋がると思います。

本日の大会がこの様な点も含めた農業の大会であって欲しいと思います。

全国各地から大勢の皆様にご来県頂き、心から歓迎いたします。ありがとうございました。

歓迎のことば

秋田市副市長
大山　幹弥

秋田市の副市長の大山でございます。佐竹市長が所用のため出張しております。代って市長の歓迎の挨拶をご紹介申し上げます。

本日、「第31回全国土地改良大会秋田大会」が全国から多くの皆様をお迎えし、ここ秋田市において盛大に開催されますことは、誠に喜ばしく、開催市として心より歓迎をいたします。また、本日、多大なご功績により、農林水産大臣表彰をはじめ、各表彰を受賞される皆様には、心からお祝いを申し上げますとともに、今後のますますのご活躍をご期待申し上げます。

会場となりました本市でありますが、秋田県のほぼ中央に位置しておりまして、霊峰太平山を擁する出羽山地や雄大な雄物川、夕日の美しい日本海など、山と川それに海に囲まれた自然豊な都市であります。人口約33万人を擁す県都としての交通・経済・文化の拠点であるとともに、肥沃な秋田平野を基盤とした稲作中心の都市近郊と中山間地が混合する農業地帯を有する都市でもあります。

さて近年の農業・農村を取り巻く環境は、大きな変革期にあると考えております。深刻化する農業従事者の高齢化や担い手不足に加え、耕作放棄地の増大など、その存亡に関わる多くの課題を抱えております。また、世界的な気候変動や穀物価格の高騰、そして、相次ぐ食の安全を脅かす事件などにより、国内農業への期待が食料自給率の向上を含めこれまでになく高まってきております。

このような中、「あすを拓く大地・きらめく疏水・たくましき郷」をキャッチフレーズとして開催されます本大会は、土地改良施設や農業資源のもつ役割と大切さを全国に発信するチャンスであります。全国の農業・農村の活性化のためには今こそ優良農地の保全や農地の有効利用を図ることが重要であります。そのことについては、私も全国市長会会長の立場などあらゆる機会を通じ提言申し上げておりますが、本大会こそがその原動力であり、さらなる充実は、本日ご参集の皆様の双肩にかかっているといっても過言ではありません。

今年の本県は幸いにも台風など大きな被害もなく、近年にない実りの秋を迎えております。短い期間ではありますがこの機会にぜひ秋田の出来味をご堪能いただければと思います。

結びに本大会にご参集の皆様と、関係者の皆様のますますのご健勝とご活躍をご祈念申し上げまして、歓迎の挨拶といたします。

来賓祝辞

農林水産副大臣
近藤　基彦

ただいまご紹介頂きました、農林水産副大臣の近藤基彦でございます。大臣がこの場へご招待を受けたのでございますけれども、本日より参議院予算委員会が始まっておりまして、どうしてもこちらに出向くことができません代わりに、私がお祝いのことばを述べさせていただきますが、その前に今回の事故米、汚染米事件につきまして消費者並びに生産者の皆様方に安全・安心に不信を抱かせてしまいましたことを、我省を代表しましてお詫びを申し上げたいと思います。本当に申し訳ございませんでした。この真相究明と再発防止に全力をあげて頑張っているところでありますので、どうぞご理解の程よろしくお願い申し上げたいと思います。そして、もう一つさきほど野中会長のご挨拶の中に、私の父親を取り上げていただきありがとうございました。私の父親は農業の再生に命をかけて散っていった人間でございます。なお、私もその跡継ぎでありますので、精一杯農業再生に頑張らさせて頂くことをここにお誓い申し上げたいと思います。

それではお祝いの言葉に入らせて頂きます。

本日、ここに第31回全国土地改良大会が開催されるに当たり一言お祝いの言葉を申し上げます。また長年にわたる功績が評価され栄えある表彰を受ける方々に対しまして心より敬意を表しお慶び申し上げます。

本大会の開催地である秋田県は、大潟村干拓を始めとして、はやくから土地改良事業に積極的に取り組まれ、日本有数の穀倉地帯を形成し、今日我が国有数の食料供給基地として重要な役割を担われております。このような地において本日の大会が盛大に開催されますことを誠に意義深く感じる次第であります。

現在、我が国の農林水産情勢は、食の安全の確保や国際的食料の受給に対応した食料自給率の向上など様々な課題に直面しております。このような中、農林水産省においては、まずは食の安全に対する国民の不安解消・信頼回復に向け石破大臣が先頭にたたれ全力で取り組んでいるところであります。また、食料自給率の向上には、食料供給力を支える農業水利施設等の更新整備や保全管理をはじめ農地・水など地域資源の保全等に積極的に取り組んで頂いております。引き続き活力ある農業農村の実現に向けてなお一層のご尽力を期待する次第であります。

農林水産省といたしましても、一人一人の生産者・消費者の皆様方の声を充分にお聞きし、施策の展開に反映させ信頼できる農林水産行政を確立すべく努力して参る所存でありますので、ご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

結びにあたり、この大会を契機として、それぞれの地域の農業農村の発展と、本日ご参集の皆様方のますますのご健勝とご活躍をご祈念申し上げ私のお祝いの言葉とさせていただきます。

土地改良事業功績者表彰

農林水産大臣表彰（5名）

❖秋田県

高畑　進（たかはた　すすむ）

湯沢市岩崎弁天土地改良区理事長
秋田県土地改良事業団体連合会会長
全国土地改良事業団体連合会理事

❖茨城県

雑賀　正幸（さいが　まさゆき）

豊田新利根土地改良区理事長
茨城県土地改良事業団体連合会副会長

❖新潟県

松川　武司（まつかわ　たけし）

福島江土地改良区理事長
福島江刈谷田川大堰土地改良区連合理事長
新潟県土地改良事業団体連合会副会長

❖愛知県

三浦　孝司（みうら　たかし）

豊田土地改良区理事長
愛知県土地改良事業団体連合会理事

❖宮崎県

黒田　昭（くろだ　あきら）

宮崎県土地改良事業団体連合会会長

記念品

左）**農林水産大臣表彰**
夫婦椀箸セット
（ランチョンマット付）

中）**農林水産省**
農村振興局長表彰
夫婦汁椀箸セット
（ぼかし塗分）

右）**全土連会長表彰**
夫婦汁椀箸セット
（銀朱・銀溜）

秋田県湯沢市川連漆器

農林水産省農村振興局長表彰（16名）

都道府県	氏　名	役　職
北海道	吉田幹雄	北見土地改良区理事長、北海道土地改良事業団体連合会理事
宮城県	千葉仁一	北上川沿岸中田地区土地改良区理事長、宮城県土地改良事業団体連合会副会長
秋田県	工藤久兵衛	井川町土地改良区理事長、秋田県土地改良事業団体連合会総括監事
山形県	鈴木貞悦	村山東根土地改良区理事長、山形県土地改良事業団体連合会副会長
栃木県	寺嶋勝豊	佐野市土地改良区理事長、栃木県土地改良事業団体連合会理事
群馬県	柳欣治	岡登堰土地改良区理事長、渡良瀬川上流土地改良区連合理事長、群馬県土地改良事業団体連合会理事
埼玉県	小柏儀一	児玉土地改良区理事長、埼玉県土地改良事業団体連合会代表監事
富山県	荻野幸和	黒部川左岸土地改良区理事長、富山県土地改良事業団体連合会理事
三重県	松森久志	白山町土地改良区理事長、雲出川土地改良区連合理事長、三重県土地改良事業団体連合会理事
奈良県	金澤秀樹	大和平野土地改良区専務理事
和歌山県	岡本善夫	有田川土地改良区理事長、和歌山県土地改良事業団体連合会代表監事
岡山県	石垣正夫	新見市長、岡山県土地改良事業団体連合会副会長
高知県	藤﨑富士登	仁淀川町長、高知県土地改良事業団体連合会副会長
福岡県	倉重繁行	城島町土地改良区理事長
長崎県	萩尾健	柚木土地改良区理事長
熊本県	立野興一	横島土地改良区理事長、熊本県土地改良事業団体連合会監事

全土連会長表彰（48名）

都道府県	氏　名	役　職
北海道	塩尻芳央	神竜土地改良区理事長、北海道土地改良事業団体連合会理事
青森県	増田榮	砂沢溜池土地改良区理事長、青森県土地改良事業団体連合会監事
岩手県	黒澤金一	一方井土地改良区理事長
宮城県	五野井嘉男	河南矢本土地改良区理事長、宮城県土地改良事業団体連合会理事
秋田県	加藤久孝	大仙市協和土地改良区理事長、秋田県土地改良事業団体連合会監事
秋田県	山田明	にかほ市土地改良区理事長、秋田県土地改良事業団体連合会理事
山形県	小林善一	八沢川土地改良区理事長、山形県土地改良事業団体連合会庄内支部監事
福島県	郷泰隆	阿武隈川上流土地改良区理事長
茨城県	倉持泰仍	菅生沼土地改良区理事長、茨城県土地改良事業団体連合会境管内連絡協議会会長
栃木県	黒﨑道男	鬼怒川左岸土地改良区理事長、栃木県土地改良事業団体連合会理事
群馬県	金井數雄	沼須土地改良区理事長
埼玉県	井上直子	葛西用水路土地改良区理事長、埼玉県土地改良事業団体連合会理事
千葉県	鶴岡和幸	市原市市西土地改良区理事長、千葉県土地改良事業団体連合会理事
東京都	佐伯茂	府中用水土地改良区理事長、東京都土地改良事業団体連合会理事
神奈川県	長嶋正一	三浦市初声町初声土地改良区理事長
山梨県	山田一廣	山梨県土地改良事業団体連合会
長野県	中村靖	上水内郡信州新町長、長野県土地改良事業団体連合会理事
静岡県	勝又幸作	富士裾野東部土地改良区理事長
新潟県	高橋明夫	五城土地改良区理事長、新潟県土地改良事業団体連合会理事
富山県	畑博一	高岡市土地改良区理事長
石川県	高井忠之	手取川七ヶ用水土地改良区副理事長
福井県	竹内敏雄	瓜生土地改良区理事長
岐阜県	内藤正行	岐阜県土地改良事業団体連合会代表監事
愛知県	鰐部次郎	愛知用水土地改良区理事
三重県	辻村唯司	大仰石橋土地改良区理事長
滋賀県	齊藤房夫	鴨川流域土地改良区理事長、滋賀県土地改良事業団体連合会監事
京都府	細井拓一	与謝野町加悦土地改良区理事長
大阪府	井阪正明	光明池土地改良区理事長、大阪府土地改良事業団体連合会理事
兵庫県	岡田義弘	兵庫県土地改良事業団体連合会理事
奈良県	小林康裕	大和高原北部土地改良区事務局長
和歌山県	辻本賢三	恋野土地改良区理事、紀の川用水土地改良区理事
鳥取県	太田光紘	大鴨土地改良区理事長
島根県	吉田和夫	平田市斐伊川以北土地改良区理事長
岡山県	立岡脩二	瀬戸内市長、岡山県土地改良事業団体連合会理事
広島県	土井敏朗	東広島市大曾場土地改良区理事長
山口県	野村好弘	厚狭郡山陽町赤川土地改良区理事長
徳島県	島川利明	吉野川北岸土地改良区理事
香川県	森里淳美	宝憧寺池土地改良区理事長、満濃池土地改良区理事長
愛媛県	玉水壽清	久万高原町長、愛媛県土地改良事業団体連合会理事
高知県	竹村定昭	山田堰井筋土地改良区理事長
福岡県	山田清治	柳川北部土地改良区理事長
佐賀県	福岡信義	佐賀市土地改良区理事長
長崎県	西田金藏	国営松浦土地改良区理事長
熊本県	山田正雄	竜北町土地改良区・氷川下流土地改良区連合事務局長
大分県	秦益雄	初瀬井路土地改良区理事長
宮崎県	山中茂	楠原土地改良区理事長
鹿児島県	近井修	喜界土地改良区理事長
沖縄県	仲宗根盛敏	長浜川土地改良区理事長、沖縄県土地改良事業団体連合会理事

２１世紀土地改良区創造運動大賞

平成20年度　21創造運動大賞　受賞地区

青森県　水土里ネット奥瀬堰（おくせぜき）

環境学習プランナー

環境学習プランナーとして、来て見て参加して水土里ネット奥瀬堰プロジェクトをテーマに地域の小学校を対象に人材作り地域作り夢作りを目指して篠田地川クリーン作戦や故郷クリーンウォークなど各種活動を展開し、それが十和田湖、奥入瀬川水系子供環境サミットの開催に発展、定着するなど子供達が体験し、自ら考える活動を組み合わせ総合的に取り組まれている点が高く評価されました。

岩手県　水土里ネット越前堰（えちぜんぜき）

歴史伝承コーディネーター

歴史伝承コーディネーターとして 430 年の歴史ある越前堰を中心に各種活動が組み立てられており、歴史学習と環境学習が融合した活動となっております。また、役員や総代は積極的に管内の農業用水利施設点検会を開催し、地元のみならず地域全体を把握し一丸となった運営管理を行っています。更に子供達によるクリーン作戦や越前堰合同学習会など学校側と連携した継続的な取り組みが高く評価されました。

富山県　水土里ネット射水平野（いみずへいや）

歴史伝承マイスター

歴史伝承マイスターとして水郷と呼ばれた、地域の開拓の歴史と地域の先人達の労苦や農業排水施設の恩恵を地域住民すべてに伝えるために、施設見学会や体験学習により、普及啓発を図り維持管理活動に非農家の参加を促している点が高く評価されました。

兵庫県　水土里ネット掎鹿谷（はしかだに）

農村活力プランナー

農村活力プランナーとして地域の農業後継者不足と高齢化、農地の未整備を克服するため、「はしかの里は花いっぱい、夢いっぱい」をキャッチフレーズにほ場整備を契機に担い手育成や景観保全地域作りについて、参画、創造、交流を掲げ活動を強化し地域ぐるみで 21 創造運動に取り組んでいる点が高く評価されました。

広島県 水土里ネット祇園町外二ヶ町

水辺環境エキスパート

水辺環境エキスパートとして、役職員組合員や地域住民及び学校と連携し八木用水を対象にフィールドワークの継続化や施設の必要性を伝えると共に、町内会や他の団体、市の協力を得て維持管理のルール化を図るなど地域に浸透した幅広い活動が高く評価されました。

香川県 水土里ネット香川用水

農村活力プランナー

水の守り手マイスターとして施設の多面的機能を地域で広く普及啓発することを理念に、水土里ネットが地域と一体となった活動を行っています。特に地域住民と一体化した管理体制を構築するための地域住民参加型の「香川用水施設巡視員」の取り組みなどが高く評価されました。

熊本県 水土里ネットてんめい

環境循環プランナー

環境循環プランナーとして水源涵養林の保全や水の浄化、蓮華の植栽など山と海との循環や環境美化運動などを教育機関と連携して取り組んでおり、カヌーによる施設巡りなど総合学習でのユニークな取り組みにより子供から大人まで施設の役割や多面的機能の理解が幅広く浸透していることなどが高く評価されました

21創造運動さなえ賞

全国水土里ネットでは、平成19年度より21世紀土地改良区創造運動さなえ賞を創設しました。

これは、運動の更なる裾野の拡大を図るため、21創造運動に取り組んで２年以内で、キラリと光る活動をした、将来性のある水土里ネットを表彰するものです。

(表彰式：平成20年12月10日、11日国立オリンピック記念青少年総合センター)

都道府県名	水土里ネット名	
秋田県	綴子	(つづれこ)
福島県	矢吹	(やぶき)
群馬県	藪塚台地	(やぶづかだいち)
富山県	金山	(かなやま)
愛知県	牟呂用水	(むろようすい)
大阪府	御殿山	(ごてんやま)

都道府県名	水土里ネット名	
兵庫県	別所	(べっしょ)
岡山県	六ケ	(ろっか)
広島県	赤屋	(あかや)
佐賀県	佐賀市	(さがし)
熊本県	秋津飯野	(あきついいの)

優良活動事例地区紹介
平成１９年度農業農村整備優良地区コンクール

農林水産大臣賞　受賞地区

■農村振興整備部門　北海道　南幌加内地区

活動概要／本地区は、中山間地域総合整備事業により暗渠や排水路が整備され、水田の乾田化により「幌加内そば」の作付け面積が1.5倍の2,700ha。生産量も1.5倍の2,300ｔになるなど生産の安定化や品質向上が図られ、日本一の蕎麦どころになりました。また、活性化施設「あぐり21」を中心に日本のそばの里をスローガンに農家と地域住民が一体となった地域作りを進めています。

■農業生産基盤整備部門　群馬県　昭和村昭和第一地区

活動概要／野菜の生産性向上のため、大型機械化と畑地灌漑施設導入を目指し県営畑地帯総合事業を実施し、「朝採りレタス」のブランドの確立や首都圏のスーパーマーケットや外食産業などと契約出荷に取り組むなど、高付加価値農業を展開し平均農家所得は全国平均の４倍となっています。
また、不凍結給水栓により冬期間のハウス作物栽培が可能になりました。区画整理で施工された水兼農道は降雨時の排水機能を向上させ、災害を防止すると共に大型機械の出入りや農道での旋回が可能となるなど、作業効率の向上に寄与しています。

農村振興整備部門　受賞地区

- ❖北海道　南幌加内地区
- ❖岩手県　笹森地区
- ❖栃木県　那須野が原西部地区
- ❖長野県　辰野地区
- ❖福井県　三方地区
- ❖兵庫県　稲美町・稲美町ため池協議会連絡会

農業生産基盤整備部門　受賞地区

- ❖茨城県　南川俣地区
- ❖群馬県　昭和村昭和第一地区
- ❖新潟県　薬師堂地区
- ❖石川県　下安原地区
- ❖沖縄県　読谷西部地区

基調報告

農林水産省農村振興局
整備部長 **齋藤　晴美**

ただいまご紹介頂きました農林水産省農村振興局整備部長の齋藤です。

本日は、第31回全国土地改良大会が、ここ秋田県で盛大に行われますことを心からお慶び申し上げます。皆様には、日頃から農業農村整備事業の推進にご尽力を賜っておりますことを厚くお礼申し上げます。

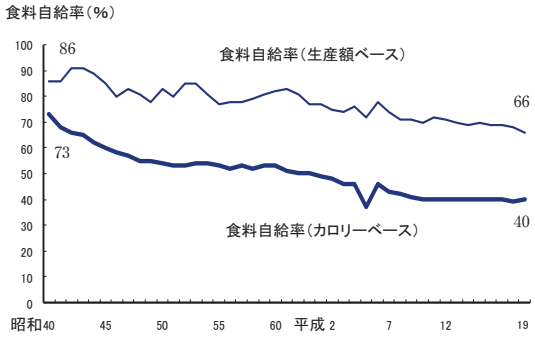
また、岩手・宮城内陸地震や岩手県沿岸北部地震、さらに集中豪雨の多発などにより被害が出ております。被災をされました方々には、心からお見舞いを申し上げますとともに、農林水産省としましても全力で一時も早い復旧に取り組む所存です。

本日は、私より、昨今の話題を中心に皆様に基調報告させて頂きたいと思います。「Ⅰ．国際的な食料事情」、「Ⅱ．我が国の食料自給率」、「Ⅲ．食料自給率の向上に資する農地・農業用水等の食料供給力の強化」、「Ⅳ．農地政策改革」、「Ⅴ．農地・水・環境保全向上対策」の状況の報告をいたします。

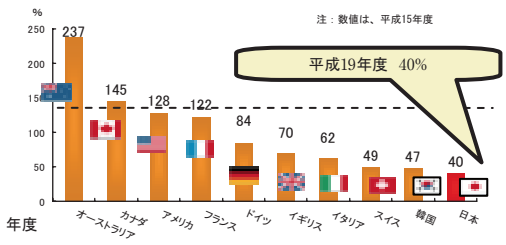
まず、穀物の国際価格の状況です。穀物の国際価格は、2006年秋頃から上昇基調で推移し、米、小麦、大豆については2年前に比べて約2～3倍となっています。現在は、小麦の豊作予測などから最高値に比べやや低下したものの、依然として高水準にあります。その背景には、基本的に、①中国やインド等の途上国の経済発展による食料需要の増大、②バイオ燃料の原料であるトウモロコシなどの需要の増大、といった要因があります。このように穀物市況を巡る情勢を厳しいものにしている要因は、輸出国による輸出規制もあると考えられております。米については、ベトナム、インド等のこれまで主要輸出国であった国々での輸出規制が相次いで実施されています。我が国の食料自給率は、国内生産力の低下や国民の食生活の大幅な変化により戦後大きく低下し、現在はカロリーベースで40%と主要先進国の中でも最低となっております。海外の農産物価格が高騰している中、割安感のある米の消費が伸びたり、国内産小麦やてんさい、さとうきびの生産を増加しようという動きもあり、食料自給率は1ポイント上昇しております。食料自給率向上のためには、水田の有効活用による麦、大豆の増産が必要です。これらを実現するためには、①地域全体の排水対策、②ほ場の大区画化による低コスト化などの整備が不可欠であると考えています。

まず、最初に地域全体の排水対策ですが、畑作物である麦、大豆を水田で栽培するためには、一連の団地としてほ場レベルの暗渠排水などの整備により水田の汎用化が必要です。また、地域の農業排水を引き受ける幹線排水路や排水機場など地域全体の抜本的な排水対策が必要となります。ちなみに、水田整備率が高い市町村ほど、麦、大豆の作付率が高くなっており、基盤整備

○我が国の食料自給率は戦後大きく低下



○主要先進国の中でも最低のレベル



の実施により麦、大豆の作付が9ポイントも高くなっています。ところで、この麦と大豆では主産地は多少異なっております。大豆については、基幹排水施設の整備された地域において全国的に主産地が形成されています。また小麦は、気象条件に適合することがもっとも重要ですが、水田転作・裏作として導入されるケースが多く、基幹排水施設の整った北海道、北関東、北九州などで主産地が形成されています。

二番目は、ほ場の大区画化による生産コストの低減についてです。食料自給率向上のため麦、大豆の増産と経営安定が極めて重要となっています。また、米本来の需要拡大も重要となっており、米粉（こめこ）や飼料用米といった新規需要米の生産拡大も必要となってきています。これらのためには、生産コストの低減を図り、経営の安定化を実現することが必要となっていますが、この場合、大区画化はもちろんのことほ場整備を契機とした農地の面的集積とともに転作の団地化やブロックローテーションの導入を推進していくことが喫緊の課題となっています。画面は大豆の作付事例ですが、ほ場整備事業を契機として生産組織をはじめ関係農家の大部分が参加した大豆のブロックローテーションにより、生産コストは約４割低減しています。担い手への農地集積や集落営農の確立が進む中、更なる効率的農業経営の実現が求められています。このためには、農業用水路のパイプライン化等により経済的な水管理や自由度の高い水利用を図ったり、老朽化したゲートや水路の改修の機会に水管理システムの見直しによる効率化を進め、生産基盤の装置化・高度化を進めていくことが必要です。安定的な農業生産を図るためには、農業用水の適切な供給が不可欠です。仮に全国の農業用水利施設が利用出来なくなった場合、水稲の生産力は5割喪失され、食料自給率は27％にまで低下します。また、これまで土地改良事業によって造成されてきた水路などの施設の耐用年数は一般的に40年程度であり、老朽化した施設の増加に対応して、計画的な保全更新が必要になっております。農地や農業水利施設、また河川や里山などで構成され、多様な生物の生息と生育の場である農村地域の自然環境は、人の手が加わることによって形作られてきました。これからは、農業農村整備事業の実施により豊かな生態系を有する生物棲息環境を創造し、農村を振興していくことが必要だと考えています。

画面では、水田魚道などの生態系に配慮した生産基盤の整備を行いコウノトリの再生を実現し、さらにコウノトリを育む農法を実践することにより、コウノトリ米というブランドで10kgが7千円で販売することに成功した兵庫県豊岡市の事例をご紹介しています。我が国の農地は、昭和36年の609万haをピークに、現在は約465万haまで減少しております。このように他国に比べ農地面積の少ない我が国においては、食料自給率の向上のために優良な農地の確保とその有効利用の両方が必要です。このため、農林水産省では「農地政策の展開方向について（H19.11.6）」を策定しました。特に農村振興局では平成21年度からの農地改革の本格化にむけて農地情報の整備を進めるとともに平成23年度を目途に農業上重要な地域を中心に耕作放棄地を解消することを目指しております。さきほど、食料自給率向上のためには優良な農地の確保とその有効利用の両方が必要であると申し上げました。農地が遊休化することなく担い手によって安定的に利用され優良な農業経営の実現に結びつくためには、農地情報を一元的に利活用することが出来るシステムを作ることが必要になります。このため、農地の所有や利用の状況に関する農地情報を一元的に把握し、それを市町村や農

業委員会、ＪＡ、水土里ネットなどの関係機関が共有化し、十分に活用していくことが重要です。農地に係る各種情報を地図の上に一元化した農地情報図を整備し、相互に活用出来るようにするためのデータベース整備を、現在、水土里ネットの皆様が中心となって整備を進めて頂いております。是非とも御協力の程よろしくお願いいたします。耕作放棄地の現状は、地域社会の状況や耕作条件等によりそれぞれ異なっており、耕作放棄地の解消方策も地域の実情に応じたものでなければなりません。現在、市町村や農業委員会が中心となって耕作放棄地の調査を行っていますが、集落内の耕作放棄地の情報提供など調査の支援を水土里ネットの方にもお願いしております。

本年度は耕作放棄地の全体調査と解消計画を策定することとしております。平成21年度予算では緊急的な耕作放棄地解消のための総合的・包括的対策として、耕作放棄地を営農可能な状態に回復する取組や用排水施設、鳥獣害防止施設、直売所・加工施設などの補完整備、さらに営農定着活動等の支援を要求しているところです。農地・水・環境保全向上対策につきましては、今年、本格実施2年目となり活動組織約1万8千組織、実施面積約136万ｈａにまで順調に広がってまいりました。これは、全国の農振農用地面積の約3分の1を占めています。これらの活動を活用して、自主施工による農道や水路の補修や水田の濁水流出抑制などの農村振興や地域の環境保全の取組に積極的に着手したり、ほ場整備を契機に設立された集落営農組織が本対策と経営安定対策を車の両輪として活用した事例などがでてきております。また、特徴的な手法として、町全体で取り組んだり、活動組織をNPO化した事例などがございます。

来年度は中間評価年となっておりますが、この取組を継続的なものとするために、しっかりとした成果を上げ、農地・農業用水の重要性を全国に発信し国民的な運動へと繋げていきたいと思っています。

以上、多々述べて参りましたが、最後に、総括的に申し上げます。我が国は少子高齢化の時代を迎え、これまで経済発展の時代に形成された農業水利資産をこれからは国民一人一人が慈しみつつ、守り、有効に使っていくことが基本となります。水土里ネットの皆様に管理いただいている土地改良施設についても、更新の時期を迎えるものが増えていく中、通常の維持管理に加え、適切な機能の診断や補修による長寿命化に取り組むことが必要となって参ります。さらに、地域の皆さま、都市住民の方々と一緒になって、地域の環境や歴史といった無形の財産を現している土地改良施設の魅力を発見し、しっかりと維持保全していくことがこれまで以上に重要になってくると考えております。また、農地情報のデータベース化や耕作放棄地の解消を通じ、優良農地が確保されることにより、優れた農業経営が実現し、本日ご参集された水土里ネットの皆さんを支える力強い礎となることを期待しております。まさに、先人や本日会場にご来席の皆様が長い歴史の中で築きあげてこられた農地や土地改良施設が、いよいよ地域の財産としてその本来の価値を発揮する時代が来たと言っても過言ではないでしょう。行政としてもこれらのことを念頭におき、皆様とともに未来の子供達に向け、しっかりと引き継いでいくことがその使命と考えております。今日のこの大会を契機にこのことを今一度確認し、農業農村整備推進を通じて、今後の農村社会が一層輝かしいものとなりますよう努めて参りたいと考えております。以上駆け足でございましたが、私の基調報告とさせて頂きます。ご静聴ありがとうございました。

大会宣言

進藤（しんどう）　暁（あきら） さん

秋田県立大学
生物資源科学部
アグリビジネス学科３年生

成田（なりた） 望美（のぞみ） さん

秋田県立大学
生物資源科学部
アグリビジネス学科３年生

我が国はアジア・モンスーン気候に属する豊かな四季と世界に誇る食文化を有する美しく豊かな国です。そして秋田は豊かで多様な食と景観と文化を有する豊穣な大地です。

ところが、1960年には80％近くあった我が国の食料自給率は現在40％程度まで低下し、その結果日本人の食卓は不安を抱えながらも外国の食材抜きには成り立たず、その食生活を維持するためには、国内農地の2.7倍分の農地と国内農業用水とほぼ同じ水量を海外に依存している状況となっています。一方で世界の食料援助量の３倍もの食品を廃棄し、水田の耕作放棄地も年々増加している現状にあります。

今、世界は、65億人以上の人口を養うため、「食料」と「エネルギー」と「水」を奪い合う時代に突入したとも言われており、もはや地球は人類を養えるぎりぎりの限界にある中、日本をはじめ先進国がその経済力にものを言わせて資源を買い漁ることがいつまでも許される状況ではありません。

今こそ、国民のニーズに合わせた足腰のしっかりした日本農業を再構築していくことが、国民から強く望まれています。

水土里ネットが担ってきた土地改良関係の社会資本は、千数百年に亘り脈々と受け継がれ守り継がれ構築されてきた貴重な社会ストックであり、豊穣な国土を形成する大地とそれを潤す血潮そのものとなっています。日本農業を再生し、自給率を向上させ農業を持続的に発展させていくためには、これらのストックを今後も有効に活用することが不可欠であり、これらを管理し保全している「水土里ネット」と「土地改良」の役割はますます重要となっています。

今世紀は「環境の世紀」と呼ばれていますが、地球規模で持続的な環境を維持していくためには、限りある資源である「食料」「エネルギー」「水」を適正に配分し、最大限効率的に利活用していくことが必要です。

「水」と「土」と「里」を健全に保全管理していくことを使命とする「水土里ネット」こそが、「食料」と「エネルギー」と「水」という資源そのものの担い手であることを皆が強く自覚し、農家のみならず国民からも信頼と信託を得るように今一度力を結集し、真剣にその存在をアピールしていくことが求められています。

「あすを拓く大地」「きらめく疏水」「たくましき郷」を国民共有の貴重な財産として、私達水土里ネットが一致団結し、守り・育くみ・伝承していくことを、ここ秋田において高らかに宣言いたします。

平成20年10月14日
第31回全国土地改良大会　秋田大会

大会旗引継ぎ

次期開催地島根県が映像で紹介された後、盛大な拍手の中、大会旗の引継が行われ、秋田県土地連の高畑会長から全土連野中会長を経て、島根県土地連の青木会長へと大会旗がしっかりと手渡されました。

次期開催県あいさつ

島根県土地改良事業団体連合会

会長　**青木　幹雄**

ただ今ご紹介頂きました、島根県土地改良事業団体連合会の青木幹雄であります。

次期開催県として一言ご挨拶申し上げます。

本日、第31回全国土地改良大会秋田大会が、このように盛大に開催されましたことを衷心よりお祝い申し上げますとともに、関係各位のご努力に対しまして心から敬意を表するものであります。

ただ今、歴史と伝統に輝く大会旗を、第32回大会の開催地として、お受けいたし、その責任の重大さをひしひしと感じているところであります。

さて神話のふるさと島根県は、数々の伝統文化が継承されており、自然豊かな、美しい日本の原風景を数多く残しております。

これらの恵は長い歴史のうえに積み上げられてきた、農の営みや土地改良の蓄積の上に成り立っている処であります。

第32回島根大会のテーマは、このような想いを込めて、「国引きのロマン、水土里の想い、神話の里から、今未来へ」といたしました。

農業生産に不可欠な水・土・里という地域資源の保全とともに、共生、循環･持続する地域づくりについて意見を交換していただき、わが国の文化を育んできました農業農村の役割を再認識する場にしたいと考えております。

これから来年の大会に向けて、私どもは、心を込めて皆様をお迎え申し上げるよう鋭意準備に努めて参る所存でございます。

先ほど、ビデオで紹介しましたように、島根は見どころがたくさんあります。来年10月、全国の神々が集まる神在月の島根に皆様多数お越しくださいますようお待ち申し上げております。

終わりに、全国水土里ネット、そして秋田県の益々のご発展と、本日ご参集の皆様の一層のご健勝とご多幸を心から祈念申し上げ、ご挨拶と致します。

心から島根へのご来県をお待ちしております。

緊急動議

香川県の香川用水土地改良区の組橋理事長より緊急動議の提案がありました。

『農林水産省に於いては、平成21年度の概算要求で国際的な食料事情を踏まえた食料要求基盤の強化のために、約7,300億円を要求しておりますがこの機会に全国の水土里ネット関係者が一致団結してこの予算の確保に向けた決意を明らかにしなければならないと存じます。また、現在国と地方の役割の見直しが議論されておりますが、食料自給率の向上と食の安全、安心の確保は国の重要な責務であり基幹的な農業水利施設の整備・保全については今後とも国が責任を持って対応する必要があると考えます。従って、次の二つの項目について全国土地改良大会において決議することを提案したいと存じます。

一、平成21年度概算要求にあたり、農業農村整備事業の予算を確保すること。

一、基幹的な農業水利施設の整備等については今後とも国営事業により実施すること。

以上2点を提案をさせて頂きたいと思います。会員の皆様のご同意を頂いて、野中会長にお取り計らいをよろしくお願い申し上げまして、動議の提案とさせて頂きます。よろしくお願い致します。』

水土里ネット香川用水組橋理事長より緊急動議の提案を受け全土連野中会長よりお言葉を頂きました。

『動議の採決についてお諮りをさせて頂きます。ご賛同の場合は拍手でご承認を頂きます。よろしくお願いします。只今組橋理事長より緊急動議をお出し頂きましたけれども、一つ一つごもっともでございます。当面の我々の目指す最大の極みでございます。至りませんが、役職員一同そして、今日は農水省の幹部の皆さんもお越しでございます。満場一致皆さんの決議を頂いたものとして、決議の扱いについて役員に一任を頂きたいと存じます。よろしくお願いします。ありがとうございました。』

万歳三唱

全土連吹田幌副会長の音頭により、万歳三唱

閉会のあいさつ

秋田県土地改良事業団体連合会

副会長　**高橋　規男**

本大会がこのように盛会裡に開催出来ましたことに対して関係機関の皆様に厚くお礼を申し上げる次第であります。

次期開催県の島根大会のご盛会と本日ご参集の皆様方のご健勝、ご多幸、今後益々のご活躍を心からご祈念申し上げ閉会のご挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

司会者／大会式典

高橋 紀子

アシスタント／秋田県湯沢市小町娘（2008年度）

泉　千穂　　加瀬谷知楠　　岩井川広美　　奥山　蘭

歓迎アトラクション

オープニング

豊年祈願や盆供養のために始められたという伝統行事。亡者を思わせる彦三頭巾。編み笠を深くかぶり、美しい端縫い衣裳を身にまとい、女たちが優雅に舞う、それとは対象的に、にぎやかに鳴り響く囃子の音が幻想的な世界を映しだす西馬音内盆踊りを西馬音内地区の方々により披露されオープニングを迎えた。

歓迎アトラクション

秋田の四季を歌と踊りで

劇団わらび座による秋田の四季を歌と踊りで表現

歌：浅野　梅若（二代目）
　　浅野　克子
　　浅野　恵子
　　浅野　江理子
　　浅野　晴香

尺　八：梅若　梅貢
三味線：梅若　梅峯
　　浅野修一郎

なまはげ

劇団わらび座による秋田の冬の伝統行事「なまはげ」を題材とした創作舞台

ばんば舞（水土里ネット全国大会版）

秋田県に古くから伝わる伝統芸を水土里ネット全国大会版として劇団わらび座が三味線演奏をバックに、自身は老婆（ばんば）に扮し、漫談と歌を交え面白おかしく演じた

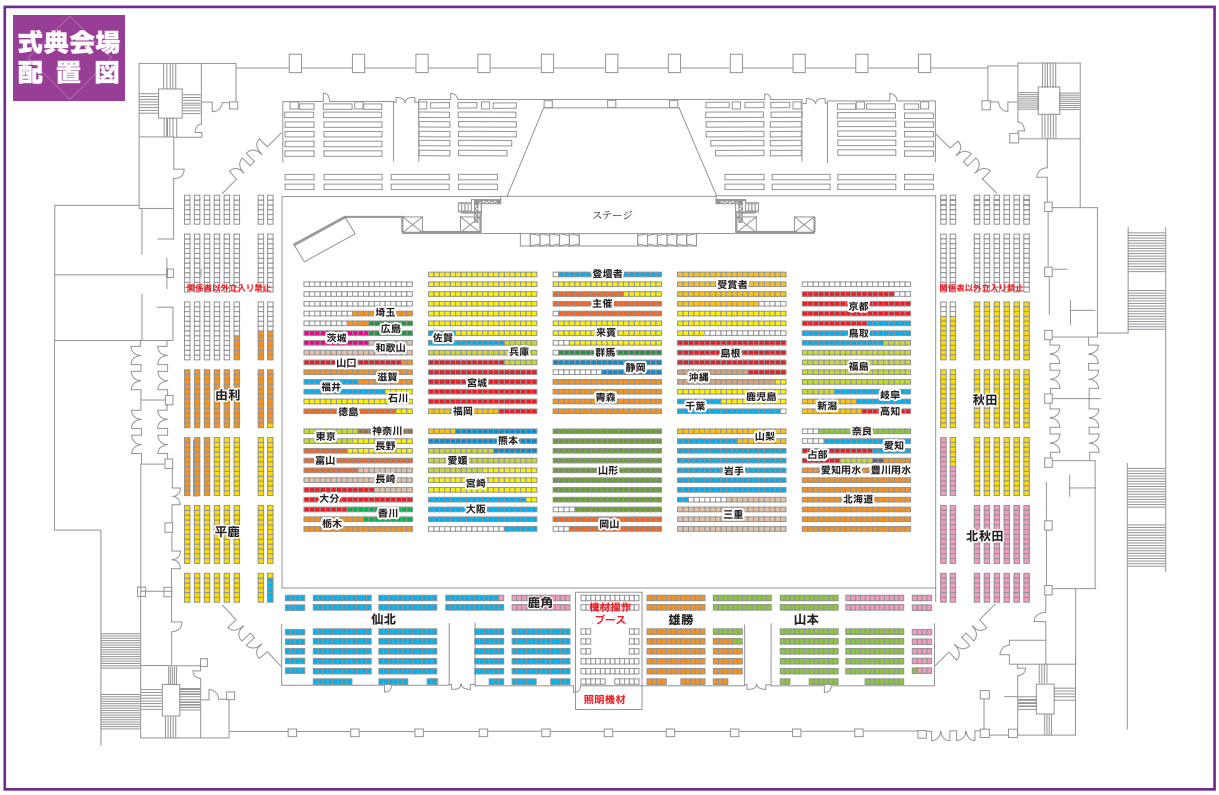
角館の秋祭り飾山囃子

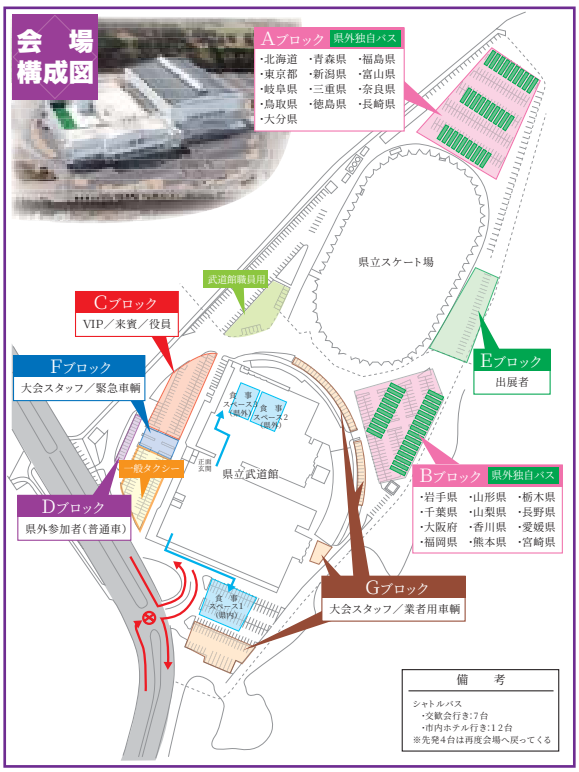
劇団わらび座により秋田県角館のお祭り飾山囃子

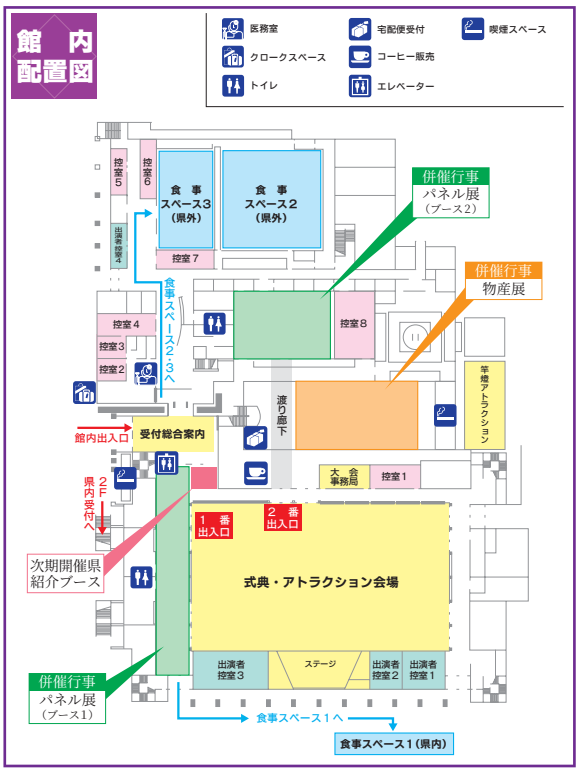
ドンパン節を会場みんなで

秋田民謡のドンパン節を会場のみなさんとともに

会場案内図　秋田県立武道館







併催行事

❖パネル展示

【東北農政局・秋田県・水土里ネットの展示】
東北農政局、秋田県、水土里ネット秋田、その他団体の活動状況等を紹介しました。

【県立大学・農業高校の展示】
秋田県立大学、県内農業高校の研究成果や学校活動を紹介しました。

併催行事

❖秋田の物産ブース

秋田県内の団体が、地元自慢の名物や特産品を展示、試食、販売を行いました。

❖次期開催県(島根県)紹介ブース

次期開催県である島根県の紹介を行い、島根県マスコットキャラクター「みこと」くんも登場しました。

左：秋田県マスコット「スギッチ」
右：秋田県伝統芸能の「なまはげ」

中庭での竿燈妙技

昼食会場

あきた観光レディー

県内彫刻家（皆川嘉左ェ門氏）による石川理紀之助像の作成

会場内受付

交　歓　会

交歓会は秋田キャッスルホテル（秋田市）において開催し、全国の土地改良関係者500余名が一堂に会して、意見交換等活発に交流を行いました。

歓迎アトラクションでは浅野梅若社中による郷土民謡の披露やなまはげ郷神楽による和太鼓を中心とした演奏などを披露し、秋田県ならではの農海産物を使った料理等によるおもてなしをいたしました。

秋田県土連高畑会長より
開催県の挨拶

全土連佐藤顧問より
来賓の挨拶

農林水産省農村振興局皆川次長より
来賓の挨拶

威勢の良いかけ声とともに
来賓と主催者が鏡開き

司会者／交歓会
石川 文子

秋田県西村副知事の音頭で乾杯！

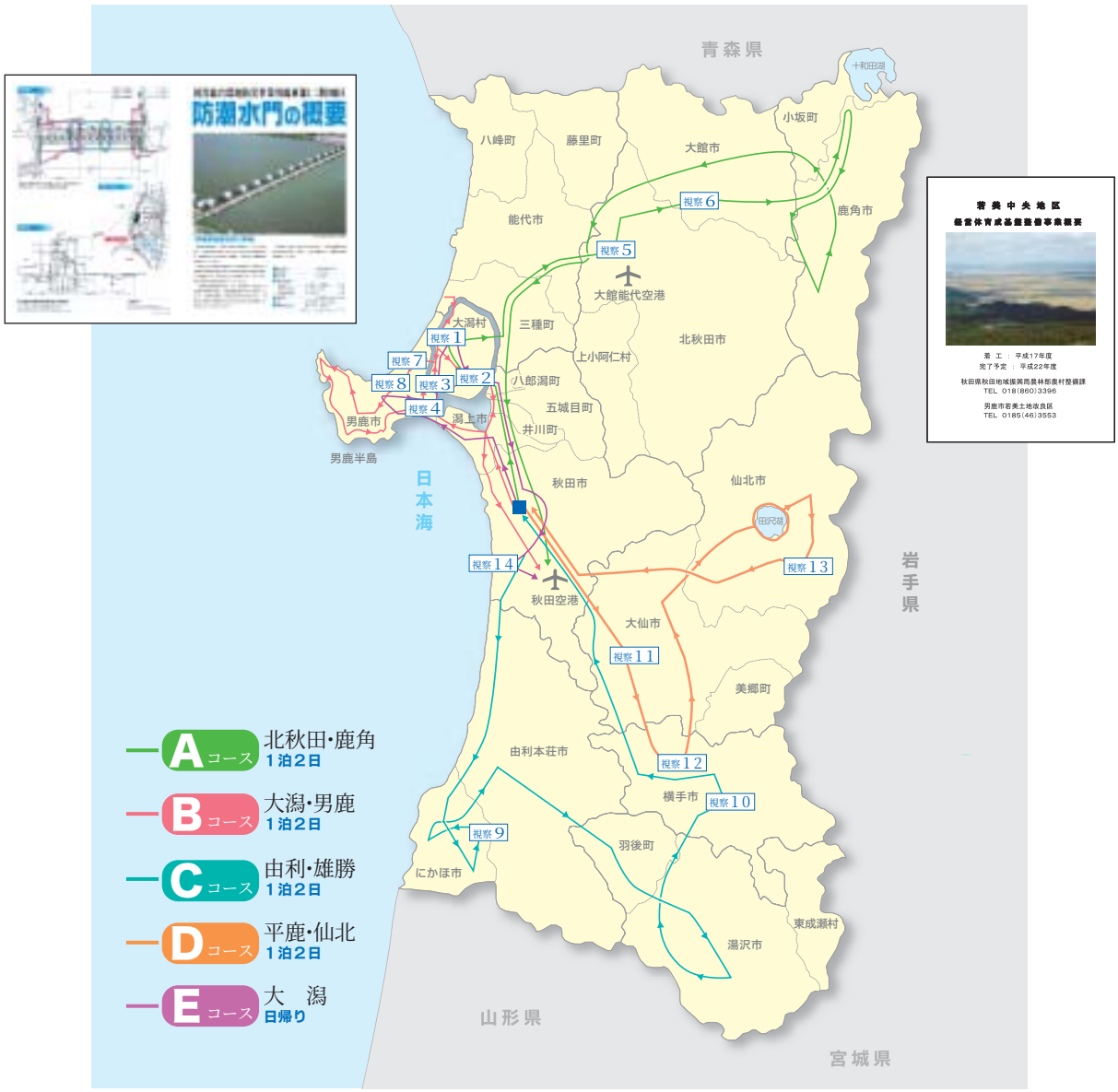
浅野梅若社中による三味線と秋田民謡の披露

安藤兄弟による幻想的な演奏に合わせダンスアベニュースタジオＳによる華麗なダンスの披露

加賀谷秋田市議会議長による中締めののち交歓会は盛大に幕を閉じました

事業視察コース

ルートマップ



事業視察

- 視察 1　大潟村干拓博物館
- 視察 2　国営造成土地改良施設整備事業 馬場目川下流地区（F 2 取水口）
- 視察 3　国営総合農地防災事業 男鹿東部一期地区（南部排水機場）
- 視察 4　国営総合農地防災事業 男鹿東部二期地区（防潮水門）
- 視察 5　低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業 綴子地区
- 視察 6　集落ぐるみの農事組合法人 立花ファーム
- 視察 7　経営体育成基盤整備事業 若美中央地区
- 視察 8　寒風山の恵み 滝の頭湧水
- 視察 9　上郷温水路群
- 視察 10　国営かんがい排水事業　皆瀬頭首工
- 視察 11　秋田県立農業科学館
- 視察 12　十五野地区ハウス団地組合
- 視察 13　国営造成土地改良施設整備事業 仙北平野地区（玉川頭首工）
- 視察 14　秋田県農林水産技術センター　農業試験場

A コース 北秋田・鹿角 1泊2日

神秘の湖 十和田湖と日本最古の芝居小屋を訪ねて

10月15日(水)

- ①宿泊地
- ②大潟干拓博物館 視察 1
- ③綴子地区ほ場整備 視察 5
- 昼　食 ④道の駅たかのす「大太鼓の里」
- ⑤立花ファーム 視察 6
- ⑥十和田湖
- ⑦鹿角ふるさと館 あんとらあ
- 宿　泊 ⑧湯瀬温泉

10月16日(木)

- ⑨大湯環状列石ストーンサークル
- 昼　食 ⑩康楽館・小坂鉱山事務所
- 秋田空港 / 花巻空港

大潟村干拓博物館

県営ほ場整備事業「綴子地区」

道の駅たかのす
「大太鼓の里」

大湯環状列石
「ストーンサークル」

特定農業法人「立花ファーム」

事業視察コース

B-1-2-3コース 大潟・男鹿 1泊2日

干拓地大潟村となまはげの里を訪ねて

10月15日(水)

	B1コース	B2コース	B3コース
①宿泊地			
②	取水口F2	南部排水機場	大潟干拓博物館 産直センター潟の店
③	大潟干拓博物館 産直センター潟の店	取水口F2	南部排水機場
④	南部排水機場	大潟干拓博物館 産直センター潟の店	取水口F2
	視察3	視察1	視察2
昼　食	⑤砂丘温泉ゆめろん		
	⑥若美中央地区ほ場整備 視察7		
	⑦滝の頭湧水群 視察8		
	⑧寒風山		
	⑨なまはげ館		
宿　泊	⑩男鹿温泉郷		

10月16日(木)

	⑪入道崎
	⑫男鹿水族館「GAO」
	⑬防潮水門 視察4
昼　食	⑭ホテルサンルーラル
	⑮県立博物館
	(秋田駅)秋田空港

なまはげ館

直営センター潟の店

F2取水口「サイフォン」

南部排水機場

国営総合農地防災事業男鹿東部（防潮水門）

B-4 コース 大潟・男鹿 1泊2日

干拓地大潟村となまはげの里を訪ねて

10月15日(水)

- ①宿泊地
- ②寒風山
- ③滝の頭湧水群　視察 8
- ④若美中央地区ほ場整備　視察 7
- ⑤取水口F2　視察 2
- 昼　食　⑥丸富ホテル(森岳温泉)
- ⑦大潟干拓博物館 産直センター潟の店　視察 1
- ⑧南部排水機場　視察 3
- ⑨なまはげ館
- 宿　泊　⑩男鹿温泉郷

10月16日(木)

- ⑪入道崎
- ⑫男鹿水族館「GAO」
- ⑬防潮水門　視察 4
- 昼　食　⑭ホテルサンルーラル
- ⑮県立博物館
- (秋田駅)秋田空港

県立博物館

滝の頭湧水

若美中央地区ほ場整備

南部排水機場

国営総合農地防災事業男鹿東部（防潮水門）

事業視察コース

C コース 由利・雄勝 1泊2日

紅葉の鳥海山と小町の郷を訪ねて

10月15日(水)

- ①宿泊地
- ②白瀬南極探検記念館
- ③鳥海ブルーライン
- ④上郷温水路群　視察9
- 昼　食　⑤道の駅象潟「ねむの丘」
- ⑥酒造「爛漫」・「両関」
- 宿　泊　⑦小安温泉

10月16日(木)

- ⑧小町堂
- ⑨皆瀬頭首工　視察10
- ⑩増田まんが美術館
- 昼　食　⑪漆蔵資料館
- ⑫蔵しっくロード
- (秋田空港)秋田駅

上郷温水路群

国営かんがい排水事業「皆瀬頭首工」

佐藤養助資料館

秋田銘酒の蔵元

小町堂

D コース 平鹿・仙北 1泊2日

伝説の湖 田沢湖とみちのくの小京都角館を訪ねて

10月15日(水)

- ①宿泊地
- ②農業科学館　視察11
- ③十五野ハウス団地　視察12
- 昼　食　④秋田ふるさと村
- ⑤池田氏庭園
- ⑥酒造「福乃友」・「刈穂」・「秀よし」
- ⑦田沢湖
- 宿　泊　⑧田沢湖高原温泉

10月16日(木)

- ⑨抱返渓谷
- ⑩玉川頭首工　視察13
- 昼　食　⑪わらび座
- ⑫角館武家屋敷
- 角　館　駅
- (秋田空港)秋田駅

秋田県立農業科学館

十五野地区ハウス団地組合

池田氏庭園

角館武家屋敷

玉川頭首工

事業視察コース

E コース 大　潟 日帰り

干拓地大潟村を訪ねて

10月15日(水)

①宿泊地

E1・3コース	E2・4コース
②寒風山	②防潮水門
③防潮水門	③寒風山

視察 4

④大潟干拓博物館
産直センター潟の店

視察 1

昼　食　⑤ホテルサンルーラル

秋　田　駅

⑥秋田県農林水産技術センター 農業試験場

視察 14

秋田空港

寒風山からの秋田の風景

防潮水門（国営総合農地防災事業）

大潟村干拓博物館

秋田県農林水産技術センター農業試験場

大会参加者集計表

	地　域	式典・交歓会参加人数			事業視察参加人数						
		式　典	昼　食	交歓会	参加者総数	A（北秋・鹿角）	B（大潟・男鹿）	C（由利・雄勝）	D（平鹿・仙北）	E（秋田近郊）	単独視察
来　賓	国	37	36	35							
	秋田県	39	39	24							
	市町村	78	78	25	3			2	1		
	国会議員	6	5	2							
	県内団体	12	12	10							
	県外団体	53	50	45	1			1			
	県ＯＢ	32	27	6							
	土地連ＯＢ	14	13	6							
	その他(県内)	12	12	5							
	小　計	283	272	158	4	0	0	3	1	0	0
主催者	全土連	26	26	15							
	秋田土連	19	19	17							
	小　計	45	45	32	0	0	0	0	0	0	0
北海道	北海道	144	133	109	109	109					
東　北	青森県	67	28	5	10		3	3		4	
	岩手県	108	70	9	67		65		1	1	
	宮城県	100	67	3	90					90	
	秋田県	1,380	1,339	40	10			6		4	
	山形県	180	183	4	49			18	31		
	福島県	88	85	2	86		86				
	小　計	2,067	1,905	172	421	109	154	27	32	99	0
関　東	茨城県	25	25	0	25					25	
	栃木県	33	33	0	0						
	群馬県	18	0	0	18		16			2	
	埼玉県	17	17	0	17				17		
	千葉県	28	0	0	28					28	
	東京都	20	20	0	8		8				
	神奈川県	11	11	0	9					9	
	山梨県	28	28	0	0						
	長野県	20	17	0	20						20
	静岡県	31	31	0	30					30	
	小　計	231	182	0	155	0	24	0	17	94	20
北　陸	新潟県	23	0	2	21			21			
	富山県	39	17	2	0						
	石川県	29	27	2	26		15	1		10	0
	福井県	26	26	2	25				25		17
	小　計	117	70	8	72	0	15	22	25	10	
東　海	岐阜県	22	4	2	21			3	1		
	愛知県	51	48	22	28		17	8		3	
	三重県	68	0	19	62		62				
	小　計	141	52	43	111	0	79	11	1	3	17
近　畿	滋賀県	31	31	2	29					29	
	京都県	69	67	2	49		9		2	38	
	大阪府	60	60	0	0						
	兵庫県	33	33	0	29		29				
	奈良県	19	19	19	0						19
	和歌山県	28	28	0	28		28				
	小　計	240	238	23	135	0	66	0	2	67	19
中　国	鳥取県	43	43	2	0						46
四　国	島根県	68	68	26	25		1			24	
	岡山県	33	34	32	30				30		
	広島県	15	15	0	14					14	
	山口県	19	10	2	15					15	
	徳島県	17	20	17	17					17	
	香川県	21	20	0	0						
	愛媛県	40	39	14	26		3	2	10	11	
	高知県	11	11	2	7					7	
	小　計	267	260	95	134	0	4	2	40	88	46
九　州	福岡県	20	20	0	0						
沖　縄	佐賀県	20	20	0	19					19	
	長崎県	39	39	5	39						39
	熊本県	48	48	0	48						48
	大分県	41	41	0	0						
	宮崎県	50	48	0	20						20
	鹿児島県	34	32	0	28		28				
	沖縄県	31	31	0	27				26	1	
	小　計	283	279	5	181	0	28	0	26	20	107
	計	3,674	3,303	536	1,278	109	370	65	144	381	209
	大会スタッフ	247			291						
	合　計	3,921	3,303	536	1,569	109	370	65	144	381	209

大会運営委員会

運営組織図

大会運営委員会 ― 大会幹事会 ― 大会運営委員会事務局
- 総務企画部
- 式典管理部
- 併催行事部
- 視察輸送部

○大会運営委員会

役　職	氏　名	所　属
委員長	高畑　進	秋田県土地改良事業団体連合会会長 湯沢市岩崎弁天土地改良区
副委員長	佐藤　文隆	秋田県農林水産部長
	佐竹　敬久	秋田県市長会長 秋田市長
	齋藤　正寧	秋田県町村会長 井川町長
	照井　敏弘	東北農政局西奥羽土地改良調査管理事務所長
委　員	川原　幸徳	秋田県農林水産部次長
	村上　克朗	秋田県農林水産部農地整備課長
	嵯峨　峰芳	秋田市農林部長
	斎藤　秋郎	秋田県市長会事務局長 秋田市総務部長
	関　正	秋田県町村会事務局長
	小林　冨義	秋田県土地改良事業団体連合会副会長 能代市東土地改良区理事長
	高橋　規男	秋田県土地改良事業団体連合会副会長 秋田県仙北平野土地改良区理事長
	古谷　英雄	秋田県土地改良事業団体連合会副会長 秋田市豊岩中央土地改良区理事長
	三浦　貞一	秋田県土地改良事業団体連合会専務理事
	安保　冨雄	秋田県土地改良事業団体連合会理事 かづの土地改良区理事長
	三澤　敏行	秋田県土地改良事業団体連合会理事 北秋田市綴子土地改良区理事長
	戸田　達雄	秋田県土地改良事業団体連合会理事 大館市南土地改良区理事長
	安井　操	秋田県土地改良事業団体連合会理事 山本郡市川堰土地改良区理事長
	鈴木　順平	秋田県土地改良事業団体連合会理事 八郎潟西部干拓地区土地改良区理事長
	佐々木　紘一	秋田県土地改良事業団体連合会理事 内越土地改良区理事長
	山田　明	秋田県土地改良事業団体連合会理事 にかほ市土地改良区理事長
	髙貝　久遠	秋田県土地改良事業団体連合会理事 秋田県田沢疏水土地改良区理事長
	柴田　康二郎	秋田県土地改良事業団体連合会理事 秋田県雄物川筋土地改良区理事長
	藤井　弘道	秋田県土地改良事業団体連合会理事 秋田県南旭川水系土地改良区理事長
	由利　傳	秋田県土地改良事業団体連合会理事 湯沢市中央土地改良区理事長
	工藤　久兵衛	秋田県土地改良事業団体連合会総括監事 井川町土地改良区理事長
	加藤　久孝	秋田県土地改良事業団体連合会監事 大仙市協和土地改良区理事長
	畠山　清俊	秋田県土地改良事業団体連合会監事 比内町土地改良区理事長
	成田　茂	秋田県土地改良事業団体連合会ＯＢ会会長
	鈴木　英弘	秋田県土地改良事業団体職員会会長 秋田市孫左衛門堰土地改良区事務局長

○大会幹事会

役　職	氏　名	所　属
幹事長	三浦　貞一	秋田県土地改良事業団体連合会専務理事
副幹事長	水戸　憲光	秋田県土地改良事業団体連合会参事
幹　事	高橋　久	秋田県農林水産部農地整備課上席主幹兼班長
	松橋　久光	秋田県農林水産部農地整備課主幹兼班長
	佐々木　清隆	秋田県農林水産部農山村振興課主幹兼班長
	原田　政子	秋田県土地改良事業団体職員会鹿角支部長
	北林　正志	秋田県土地改良事業団体職員会北秋田支部長
	牧野　一	秋田県土地改良事業団体職員会山本支部長
	小林　秀昭	秋田県土地改良事業団体職員会秋田副支部長
	須田　久	秋田県土地改良事業団体職員会由利支部長
	武田　孝雄	秋田県土地改良事業団体職員会仙北支部長
	小西　一三	秋田県土地改良事業団体職員会平鹿支部長
	高橋　英夫	秋田県土地改良事業団体職員会雄勝支部長
	池田　与嗣広	秋田県土地改良事業団体連合会総務企画部長
	加澤　隆昌	秋田県土地改良事業団体連合会管理情報部長
	藤原　隆則	秋田県土地改良事業団体連合会環境整備部長
	猿田　春一	秋田県土地改良事業団体連合会農地整備部長
	戸沢　正巳	秋田県土地改良事業団体連合会北事務所長
	高野　孝行	秋田県土地改良事業団体連合会南事務所長

○大会運営委員会事務局

役　職	氏　名	所　属
事務局長	水戸　憲光	秋田県土地改良事業団体連合会参事
事務局	池田　与嗣広	秋田県土地改良事業団体連合会 総務企画部長
	畠山　政勝	秋田県土地改良事業団体連合会 総務企画部次長
	阿部　淳	秋田県土地改良事業団体連合会 総務企画部主査
	齊藤　勉	秋田県土地改良事業団体連合会 総務企画部専門員
	尾張谷　憲男	秋田県土地改良事業団体連合会 総務企画部専門員

○大会スタッフ数

本会職員	東北農政局スタッフ	県職員スタッフ	土地改良区スタッフ	市町村スタッフ	その他	合計
87	12	96	141	20	45	401

大会までの流れ

年　月	事　項	内　容
H17.12.16	開催県に立候補	
H18. 4. 3	大会プロジェクトチーム発足	大会の準備
H18.10.10	土地改良大会が秋田に決定	
H19. 4.19	幹事会・運営委員会設置	大会の基本計画について(H 18.4.19～H 20.12.18 計6回開催)
H19. 6.13	大会テーマ決定	「あすを拓く大地、きらめく疏水、たくましき郷」に決定 応募数211件
H20. 2. 1	全国大会引継	秋田県土地連にて三重県土連より引継
H20. 2. 5	全国大会参加アンケート実施	
H20. 5.27	大会参加者募集	
H20. 6.13	大会スタッフ要請	
H20. 9.19	スタッフ説明会	
H20.10.14	第31回全国土地改良大会秋田大会開催	
H20.10.15～16	第31回全国土地改良大会秋田大会事業視察	秋田県内　5コース

秋田大会経済波及効果について

H 19年度 **秋田経済研究所の試算額による推計**

大会参加者　3,000人　（単位：千円）

名　　称	直接効果	総合効果
大会参加者の消費支出	103,800	162,350
大会準備・運営費	82,700	126,290
合　　計	186,500	288,640

H 20年度実績

大会参加者　3,900人　（予想額）（単位：千円）

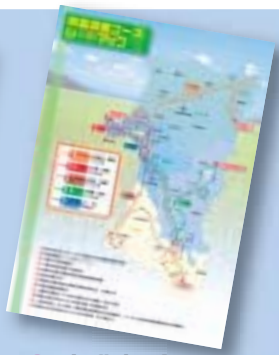
名　　称	直接効果	総合効果
大会参加者の消費支出	134,940	210,506
大会準備・運営費	113,257	173,283
合　　計	248,197	383,789

※総合効果は直接効果を含む

大会用ツール・グッズ

▲大会ポスター

▲参加のご案内



▲事業視察コース

▲大会プログラム

▲交歓会プログラム

▲大会 DVD

▲会場案内図

▲手提げバッグ

▲封筒（当日用）

▲大会記念品(仙北市角館町桜皮細工)

▲封筒（各コース）

▲事業視察
ガイドブック

▲スタッフジャンパー

▲参加カード

▲大会のぼり

▲掲載新聞

大会スナップ

大会スナップ

あとがき

第31回全国土地改良大会秋田大会の開催に当たり、農林水産省を初め、秋田県、県内市町村、水土里ネット及び関係団体、関係企業の皆様には温かいご支援、ご協力を賜わりまして、誠にありがとうございました。改めて心より御礼申し上げます。

平成18年10月、本県で第31回大会を開催することが決定になり、翌年の三重大会で大会旗を引き継いでから本格的な準備に取りかかりました。

三重県さんから引き継いだ資料を基に秋田の特色を如何に出すかについて皆で知恵を絞りました。平成20年度に入って担当スタッフを決めて作業を進めましたが、やる事が多すぎて仲々全貌が見えて来ませんでした。一つ課題を片づけるとまた一つと新しい課題が次々と降って参ります。蟻地獄で蟻が必死になってもがいているような気さえしました。

大会１カ月前位におおよその姿、形が整いましたが、次の課題は参加者が大会直前まで確定できず、変更、変更に翻弄されました。

正直、くたびれ果てた末にやっと前日のリハーサルを迎え、午後の８時頃会場を後にし、「やるだけのことはやった。後は、うまくいくことを祈るだけ」という心境になりました。

既に実施済みの都道府県の関係者はご存じのことと思いますが、大会準備に係わる苦労は、語り始めれば紙面がいくらあっても足りないくらいです。

お陰様で、３日間とも天候に恵まれ、多少のハプニングはありましたが大会、事業視察とも恙なく、好評のうちに終えることができました。

特に、事業視察での本県水土里ネットの対応に好感を抱いて下さった視察者が大勢いらっしゃったことについては、本県水土里ネットのネットワークの力に自信を深める結果となりました。

ご案内のとおり、秋田は全国でも有数の米作県であり、農聖石川理紀之助翁が創始した種苗交換会は131回の長きに亘っております。その功績は引き継がれ、反収日本一（1,052.3Kg）として昭和32年に本県農家が達成しております。このことについては、テレビ番組でも取り上げられ、反収日本一を獲得するため、時には土壌を口に含んで土壌改良に取り組んだ逸話が紹介されておったと記憶しております。

こと、秋田県民は生真面目でありながら不器用であり、人付き合いが苦手な県民性とも指摘されます。大会期間中の多少の失礼はご容赦頂きたいと存じます。

農業農村の限りない発展と全国大会の隆盛を祈念するとともに大会参加者の再度のご来県を心待ちにして筆を置かせて頂きます。

平成21年２月

第31回全国土地改良大会秋田大会運営委員会　事務局

第31回 全国土地改良大会 秋田大会

発行／秋田県土地改良事業団体連合会
編集／第31回 全国土地改良大会秋田大会運営委員会事務局
〒010-0967 秋田県秋田市高陽幸町3番37号　TEL018-888-2750 FAX018-888-2834

平成21年２月発行